

年賀寄付金配分事業とは

全国の皆さまに寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご購入いただくことで寄せられる寄付金を日本郵便がお預かりし、「お年玉郵便葉書等に関する法律」の規定に基づき、総務大臣の認可のもとに毎年配分を行っています。1949年にはじまり、これまで71回配分を行っています。寄付金による配分額は、これまでに合計で約513億円にのびます。

年賀寄付金配分事業の仕組み



寄付金の使い道

10分野の事業を行う団体に公募をし、外部有識者による委員会が、配分する団体や配分金額の審査を実施しています。

社会福祉の増進	風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防
青少年健全育成のための社会教育	交通事故、水難の救助・防止
地球環境の保全	がん、結核、小児まひなどの研究・治療・予防
健康保持増進のためのスポーツ振興	原子爆弾の被爆者への治療・援助
開発途上地域からの留学生・研究生の援護	文化財の保護

年賀寄付金配分事業紹介アニメーション

年賀寄付金配分事業をアニメーションで紹介しています。ぜひご覧ください。



日本郵便 年賀寄付金



年賀はがきで贈る、真心と未来。

～あなたの気持ちはこんな活動を支えています～

撮影協力：神奈川県総合防災センター

紙の間仕切りシステムを使用した 避難所環境改善のための防災プログラム提供事業

地域 東京都 助成金額 240万円 団体 特定非営利活動法人ボランティア・アーキテツ・ネットワーク

ボランティア・アーキテツ・ネットワークは、国内外の大規模災害発生時において被災者への住環境に対する支援事業や、防災訓練を通じた啓発事業など、震災被害からの円滑な復旧・復興、及び被害の最少化に寄与することを目的として活動している。避難所でのプライバシー確保のために紙管と布を利用した紙の間仕切りシステムは、2011年に発生した東日本大震災では4ヶ月にわたり 50ヶ所の避難所に対して1,800ユニットを提供した。今回は、より迅速な支援ができるように普及啓発取り組んだほか、大規模災害において間仕切りシステムを設置。

1 紙の間仕切りシステムの体験型防災訓練



自治体や行政主催の防災訓練にて、紙の間仕切りシステムを実演。参加者が自ら組み立てを行うことにより、実際の災害時により迅速に間仕切りシステムを設置可能となるよう指導。

実施・・・21ヶ所 参加者数・・・約1,600名

2 大学でのリーダーシップ養成レクチャー

災害発生から避難所の開設までの流れや、避難所での問題、組立方法等を伝え、避難所でリーダーシップを取れるよう指導。

参加者数・・・80名

3 宿泊型訓練

通常の防災訓練とは異なり、実際の災害に近い状況で避難所体験を行うことで、プライバシー確保の重要性をより実感できるプログラムを提供。

参加者数・・・20名

4 間仕切りシステムの設置

大阪北部地震・・・40ユニット

西日本豪雨災害・・・1,240ユニット

北海道地震・・・360ユニット

成果



実際の災害時にも効率的に間仕切りを設置！

大規模災害が発生し40ヶ所の避難所から設置の要望を受け、被災地の学生やボランティアと連携することで、効率的に間仕切りシステムを設置することができた。今後は、紙の間仕切りシステムを組み立てマニュアルを作成し、自治体との連携によって、迅速な支援ができることを目指す。

様々な独居高齢者のための居場所づくり事業

地域 広島県 助成金額 50万円 団体 特定非営利活動法人咲良の会

咲良の会は、超高齢化社会が進む日本において、老いを迎えるにあたって避けては通れない様々な問題について学び、集い、考え、支え合うため新たなセーフティネットとなりうる社会基盤を目指して、広島市中区基町で地域づくりを行ってきた。自宅、病院、施設のいずれでも最期を迎えることができない高齢者が増えているなか、住民が一体となった見守り環境を醸成するために、老若男女問わず集まれる複層的な構成の居場所や交流の場づくりに取り組んだ。

1 コミュニティ食堂



独居等の高齢者が「誰かと会話しながら食事できる」ことを目的に、低価格で食事を提供。

開催回数・・・241回/年

参加者数・・・2400名

2 夜の世代交流居酒屋

「持ち寄り居酒屋」スタイルの夜の交流会

開催回数・・・12回/年 参加者数・・・100名

3 自己表現活動「祭り・音楽会」

民謡や三味線などの発表会

開催回数・・・2回/年 観客,参加者数・・・延べ200名

4 『人生劇場紙芝居』等による 記憶の呼び起こしと死の学習会

人生の来し方を紙芝居化して上演。

開催回数・・・11回/年

参加者数・・・100名

5 人生を語り遺すための 「歌唱による思い出語りの会」と リビングウィルを語り遺す会」

思い出の歌等を思い出すため、歌あり思い出話ありのヒアリングを実施。

開催回数・・・11回/年

リビングウィル・・・5名

成果



「庶民高齢者のコレクティブタウン」実現に向けた第一歩に！

昼も夜も、日常も祭事も、食も歌も、死のテーマも、という複層的な居場所づくりをすることができた。また『人生劇場紙芝居』の活動が北海道十勝振興局長の目に留まり、十勝帯広で紙芝居会やシンポジウムが開催されることになるなど事業が県外にも広がった。